

高知県

第85号 2016年10月

農業技術センターニュース

目 次			
施設内処理農薬の作業者暴露低減	… 1	耐低温性ピーマン有望系統の育成	… 4
安全・安心なニラの出荷にむけて～水圧式ニラ洗浄そぐり機を用いた異物除去～	… 2	早期栽培用酒造好適米有望系統「高系酒 356」の酒造および醸造適性	… 5
炭酸ガス施用下におけるニラの葉先枯れ発生について	… 3	日射比例制御かん水条件下におけるナスの根と養水分の畝内分布	… 6

施設内処理農薬の作業者暴露低減



①防じんマスク



②防毒マスク(直結式小型)
写真 試験に使用した防護マスク

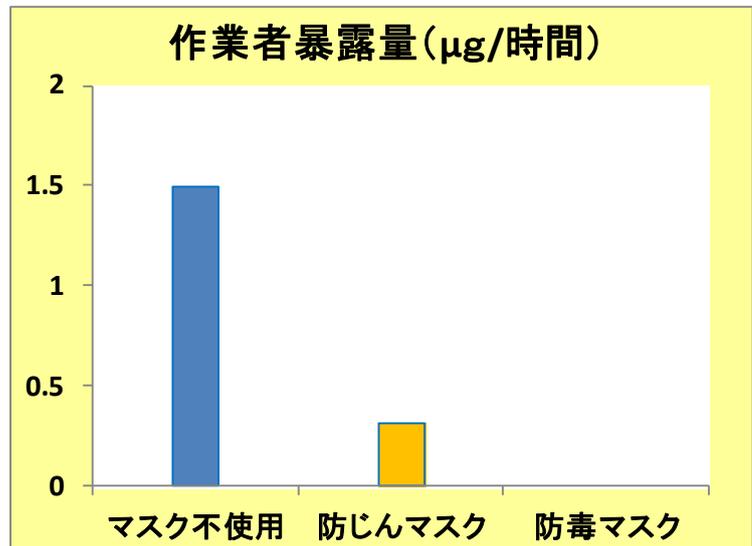


図 マスク使用の有無とその種類による作業者暴露量の違い

閉鎖された施設内では、農薬散布時の飛散(スプレードリフト)の他に、散布剤や灌注剤の気化による揮散(ベーパードリフト)が起こり、作業者暴露が懸念されています。そこで、大気中に揮散した農薬成分の挙動を調査し、作業者の健康被害防止に着目した試験を実施しています。ここでは、灌注処理した農薬の作業者暴露とその対策について紹介します。

散布剤の場合は、微小な粒子が施設内を漂っていることが容易に想像できますが、土壌に直接処理した灌注剤の場合でも、

大気中から農薬成分が検出されました。

そこで、作業者の吸入による暴露リスクを下げるため、防護マスク(写真)使用の有無と吸入暴露濃度を調査しました。

その結果、防護マスクを使用することで、不使用時と比べて吸入による暴露濃度を防じんマスクでは約5分の1、防毒マスクではほぼゼロに低減できました。このことから、農薬の散布時だけでなく、土壌灌注処理を行う場合も防護マスク(国家検定合格品)を使用するようにしましょう。

(農薬管理担当 島本文子 088-863-4915)